

SUMIDA CORPORATION

2007年度第4四半期決算説明会

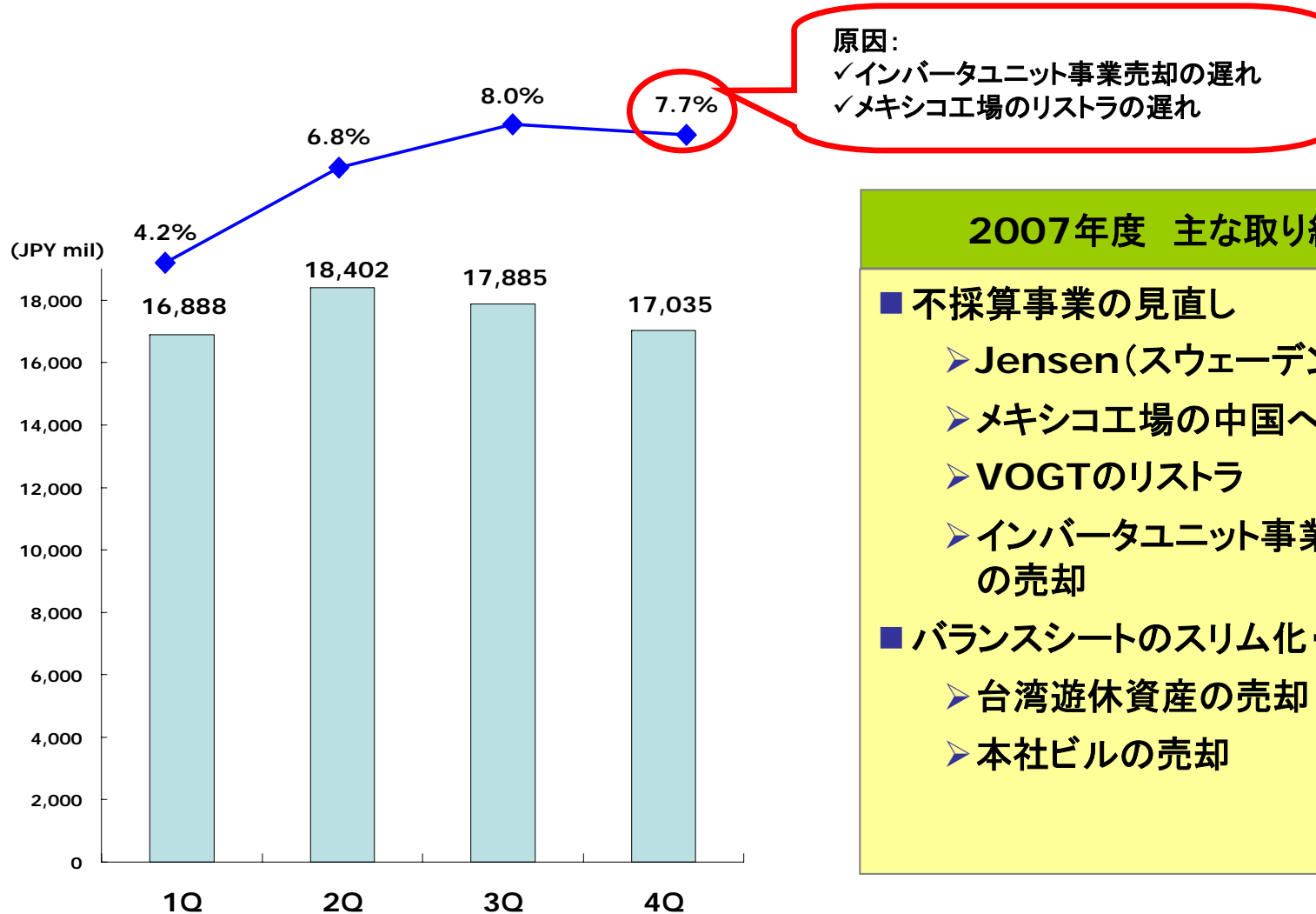
～ 2007年／1B7の総括と今後の事業展開 ～

2008年2月19日

CEO 八幡 滋行

CFO 松田 三郎

■ 売上高と営業利益率の推移



2007年度 主な取り組み事項

- 不採算事業の見直し
 - Jensen(スウェーデン)の売却
 - メキシコ工場の中国への生産移管
 - VOGTのリストラ
 - インバータユニット事業(台湾・中国)の売却
- バランスシートのスリム化・健全化
 - 台湾遊休資産の売却
 - 本社ビルの売却

売上高	堅調なレガシー事業とオートモーティブ、VOGT事業の拡大により順調に推移	→前年度比10.6%増
営業利益	既存事業の順調な拡大による増収効果と構造改革による採算性の向上から増益	→前年度比13.0%増
経常利益	円高による為替差益の減少により減益 (但し、為替要因を除くと前年度比21%増)	→前年度比 3.0%減
当期利益	不採算事業・固定資産の売却益計上により大幅増益	→前年度比30.9%増
コメント	<ul style="list-style-type: none">■ 売上堅調、第4四半期で営業利益率8%のレベルにほぼ到達■ 構造改革の各種施策の完了	

1. 為替差益(差損)

	07.1Q	07.2Q	07.3Q	07.4Q	2008年	12ヶ月平均
円/米ドル	118.1	123.3	115.6	112.4	108	117.65
円/ユーロ	157.2	165.8	163.7	165.6	158	161.29
円/香港ドル	15.1	15.8	14.9	14.4	14	15.78
為替差益(差損) (単位:百万円)	59	455	△364	△122		28

2. 第4四半期連結経営成績

(単位:百万円)

	07年4Q				06年4Q	前年同期比較
	実績	予想	差異		実績	
売上高	17,035	17,000	35	0.2%	17,162	△0.7%
営業利益	1,316	1,400	△84	△6.0%	608	116.3%
売上高営業利益率	7.7%	8.2%		△0.5%	3.5%	
経常利益	1,032	1,335	△303	△22.7%	492	109.8%
四半期純利益	949	940	9	0.9%	△55	—

3. 2007年12月期連結経営成績

(単位:百万円)

	2007年				2006年	前年同 期比較
	実績	予想	差異		実績	
売上高	70,210	70,200	10	0.0%	63,508	10.6%
営業利益	4,712	4,800	△88	△1.8%	4,171	13.0%
売上高営業利益率	6.7%	6.8%		△0.1%	6.6%	
経常利益	4,368	4,700	△332	△7.1%	4,505	△3.1%
当期純利益	2,855	2,900	△45	△1.5%	2,182	30.9%

4. 2007年通期の連結業績(実績)

(単位:百万円、%)

	2007年				通期
	1Q	2Q	3Q	4Q	
売上高	16,888	18,402	17,885	17,035	70,210
営業利益	705	1,253	1,438	1,316	4,712
売上高営業利益率	4.2%	6.8%	8.0%	7.7%	6.7%
経常利益	563	1,750	1,023	1,032	4,368
四半期純利益	355	679	872	949	2,855

5. 特別損益

(単位:百万円)

	2007年1Q	2007年2Q	2007年3Q	2007年4Q	2007年通期
固定資産売却	△1	973	2,007	△142	2,837
アリマ・デバイス株式等の の評価損	—	△946	△265	—	△1,211
インバータ事業の構造改 革	—	△211	—	—	△211
Jensenの売却	—	△162	0	—	△162
インバータ事業の売却	—	—	—	370	370
SUMIDA Vogt GmbHの 構造改革	—	△519	△621	△1,042	△2,182
その他	32	117	△892	549	△194
合計	31	△748	229	△265	△753

6. 第4四半期ビジネス(事業)別売上高

	07年4Q (百万円)	06年4Q (百万円)	増減	
			金額(百万円)	(%)
マグネティックス	6,340	6,632	△292	△4.4
インバータ	1,720	1,988	△268	△13.5
オートモーティブ	2,599	2,166	433	20.0
Panta	446	356	90	25.3
STELCO	503	471	32	6.8
VOGT コンポーネント	4,905	5,059	△154	△3.0
VOGT EMS	517	466	51	10.9
その他	5	24	△19	
合 計	17,035	17,162	△127	△0.7

7. 2007年ビジネス(事業)別売上高

	2007年 (百万円)	2006年 (百万円)	増減	
			金額(百万円)	(%)
マグネティックス	25,447	23,634	1,813	7.7
インバータ	6,724	7,520	△796	△10.6
オートモーティブ	9,862	8,231	1,631	19.8
Panta	1,867	356	1,511	424.4
STELCO	2,071	2,238	△167	△7.5
VOGT コンポーネント	21,699	18,878	2,821	14.9
VOGT EMS	2,507	2,381	126	5.3
その他	33	270	△237	
合 計	70,210	63,508	6,702	10.6

8. 第4四半期製品仕向地別売上高

	07年4Q		06年4Q		増減額 (百万円)
	(百万円)	構成比(%)	(百万円)	構成比(%)	
日本	2,510	14.8	2,583	15.1	△73
香港/中国	3,600	21.1	3,543	20.6	57
ASEAN	839	4.9	892	5.2	△53
台湾/韓国	1,010	5.9	1,510	8.8	△500
NAFTA	1,552	9.1	1,740	10.1	△188
EU	7,514	44.1	6,821	39.8	693
その他	10	0.1	73	0.4	△63
合計	17,035	100.0	17,162	100.0	△127

9. 2007年製品仕向地別売上高

	2007年		2006年		増減額 (百万円)
	(百万円)	構成比(%)	(百万円)	構成比(%)	
日本	9,489	13.5	9,663	15.2	△174
香港/中国	13,524	19.3	11,028	17.4	2,496
ASEAN	3,297	4.7	3,163	5.0	134
台湾/韓国	4,718	6.7	6,031	9.5	△1,313
NAFTA	7,133	10.2	5,931	9.3	1,202
EU	31,969	45.5	27,619	43.5	4,350
その他	80	0.1	73	0.1	7
合計	70,210	100.0	63,508	100.0	6,702

+10.6%

10. ビジネス(事業)別営業利益分析

(単位:百万円、%)

	07年4Q	06年4Q	増減額
コイル	1,716	1,412	304
営業利益率(%)	14.6	12.1	—
VOGT コンポーネント	278	△187	465
営業利益率(%)	5.6	△3.7	—
VOGT EMS	△13	94	△107
営業利益率(%)	△2.5	20.2	—
消去又は全社	△665	△711	46
合計	1,316	608	708
営業利益率(%)	7.7	3.5	—

11. ビジネス(事業)別営業利益分析

(単位:百万円、%)

	07年	06年	増減額
コイル	6,344	6,060	284
営業利益率(%)	13.6	14.3	—
VOGT コンポーネント	975	769	206
営業利益率(%)	4.5	4.1	—
VOGT EMS	87	329	△242
営業利益率(%)	3.5	13.8	—
消去又は全社	△2,694	△2,987	293
合計	4,712	4,171	541
営業利益率(%)	6.7	6.6	—

12. 連結貸借対照表

(単位:百万円)

	2006年	2007年	2008年(予)
短期借入金	13,231	16,196	
社債(アルパイン)	8,000	8,000	
長期借入金+社債	6,307	3,563	
借入金合計	27,538	27,759	
現預金	6,417	9,180	
ネット借入金	21,121	18,579	
流動資産・流動負債の削減			5,500
2008年の収益			4,900
その他金融資産			1,700
小計			12,100
自己株式			1,500
合計			13,600 → 4,979

13. 第1四半期連結業績予想

	2008年 1Q予想 (百万円)	2007年 1Q実績 (百万円)	比較	
			金額 (百万円)	%
売上高	15,600	16,888	△1,288	△7.6%
営業利益	1,000	705	295	41.8%
売上高営業利益率	6.4%	4.2%		
経常利益	800	563	237	42.1%
当期純利益	560	355	205	57.7%

14. 2008年第1四半期の連結業績予想

2007年1Qの実績	売上高	16,888百万円	
2008年1Qの予想	売上高	15,600百万円	差: Δ 1,288百万円

インバータユニット事業	2007年1Q	売上高	1,660百万円
VOGTビジネス	2007年1Q	売上高	750百万円
			2,410百万円

16,888百万円
 Δ 2,410百万円
 Δ 1,000百万円 (為替)

13,478百万円

+15.7%  15,600百万円

15. 2008年連結業績予想

	2008年 通期予想 (百万円)	2007年 通期実績 (百万円)	比較	
			金額 (百万円)	%
売上高	65,300	70,210	△4,910	△7.0%
営業利益	5,230	4,712	518	11.0%
売上高営業利益率	8.0%	6.7%		
経常利益	4,830	4,368	462	10.6%
当期純利益	3,380	2,855	525	18.4%

16. 2008年12月期の連結業績予想

2007年12月期の実績	売上高	70,210百万円	
2008年12月期予想	売上高	65,300百万円	差: Δ 4,910百万円

インバータユニット事業	2007年	売上高	6,200百万円
VOGTビジネス	2007年1Q	売上高	3,000百万円
			9,200百万円

70,210百万円
 Δ 9,200百万円
 Δ 3,200百万円 (為替)

57,810百万円

+13.0%

65,300百万円

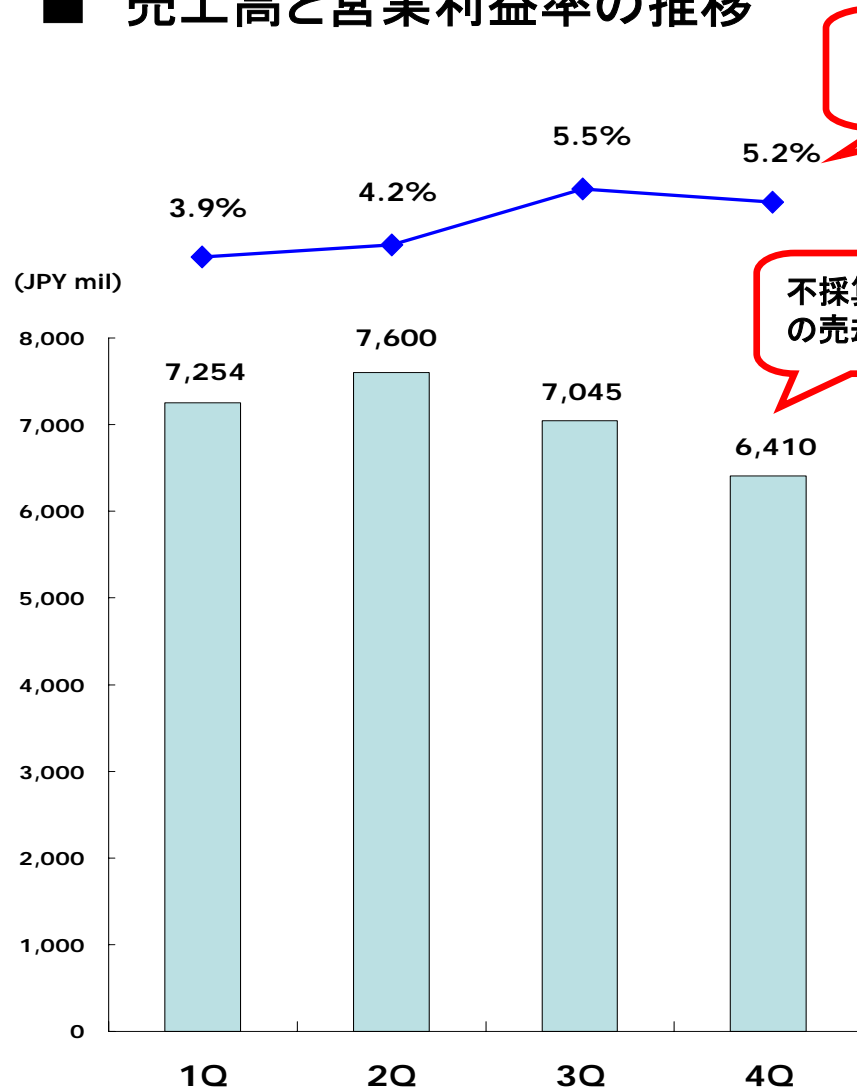
17. 設備投資、減価償却、研究開発

2008年計画

・設備投資	4,500百万円
・減価償却費	4,100百万円
・研究開発費	(SECL)2,800百万円
	(SVG)800百万円
	<hr/>
	3,600百万円

2007年度 第1-第4四半期総括(SVG)

■ 売上高と営業利益率の推移



クリスマスによる稼働率の低下

不採算会社の売却

2007年度 取り組み事項

- VOGT不採算部門の合理化
(2社の整理を含む)
- 東欧工場群の中国への生産移管
➤ 生産性の向上

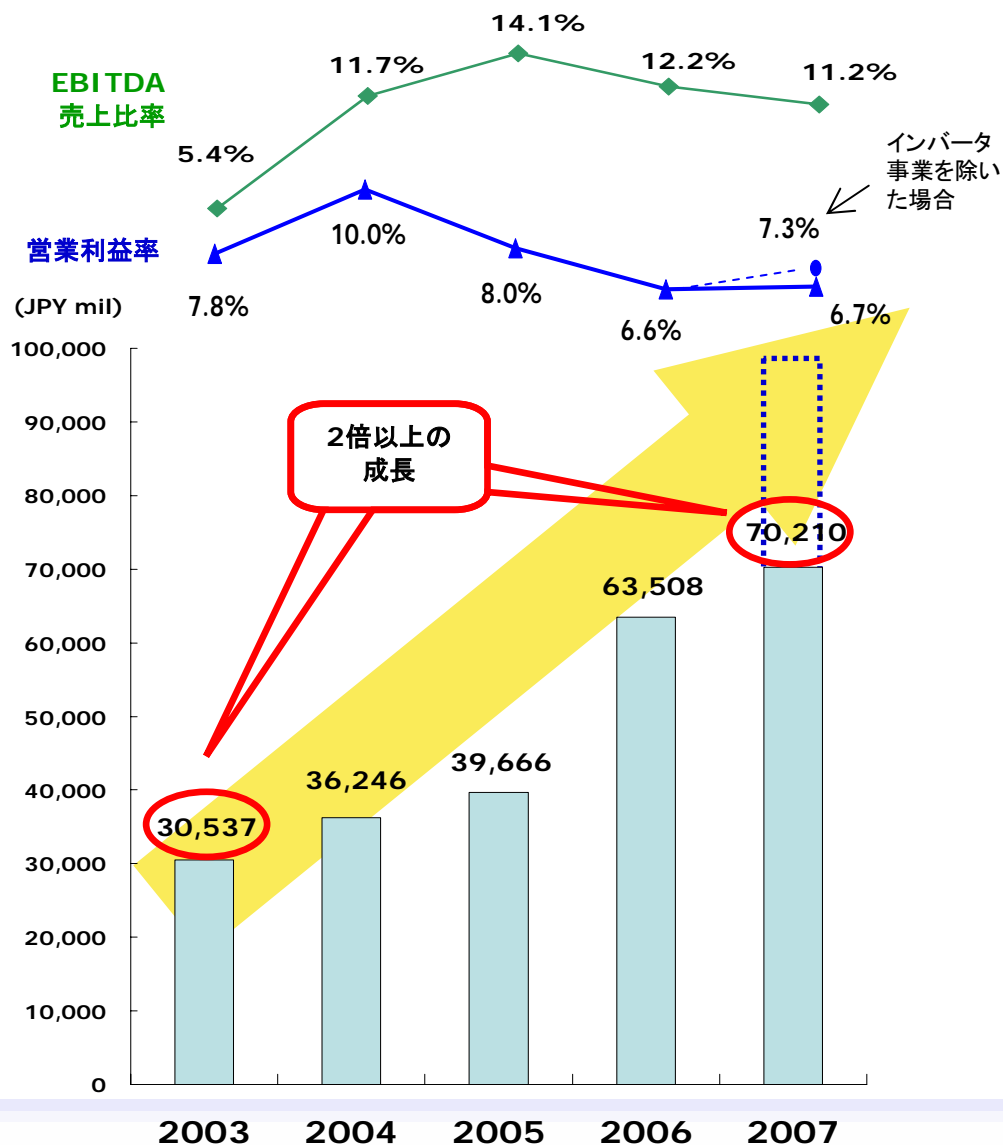


- 主なリストラは、VOGT買収後2年で完了
- 今後は事業拡大に注力し、SECLとのシナジー効果で更なる収益力の改善を目指す

03年～07年度 中期経営戦略"1B7"総括



■ 売上高・営業利益率とEBITDA売上比率の推移



1B7 ターゲット

- 売上高1,000億円
- EBITDA売上比率10%以上

成果

- 定量的な目標の達成
 - ▶ 事業売却等により売上高は未達もEBITDA率の目標は達成
- 戦略事業分野の確立
 - ▶ 家電市場向け事業とオートモーティブ事業の二本柱
- 1,000億円企業としての従業員の意識改革
 - ▶ 業界のリーダー、グローバル企業の一員としての自覚
 - ▶ 従業員のスキル向上を通じて新たに優秀な人材を確保

新たな成長ステージへの取り組み



■ 1B7での企業戦略と財務的な成果:規模追求による利益成長

- 電子部品セクターでの規模の経済の追求・存在感向上を目指し、M&Aを積極化、規模拡大を実現
- 事業分野、商圏の拡大を通じ戦略事業の二本柱が確立(家電市場向け・オートモーティブ)
- 規模拡大をまずは優先した結果、営業利益率はFY04～FY06に低下

■ 2007年度の戦略的意義:利益率の本格的反転への布石

- グローバルに拡大した組織、生産拠点の集約化、不採算部門の整理を推進
- 本社売却、資産圧縮も同時に推進
- 製造部門での一層の生産性改善への取り組み
- 新COO 2名を招聘し、経営執行体制を強化
- インバータユニット事業売却を前提にすれば、営業利益率の反転を実質的に達成
- 規模拡大のメリットを享受できる体制へ

1B7 成果の維持・発展と課題への取り組み



■ 新たな成長ステージへの布石:利益率向上と規模拡大による年率20%程度の利益額成長に向けて – 取り組み中の課題

- 家電市場向け・オートモーティブの2つの戦略事業を軸とし、シナジーを最大限に引出すグローバルな経営体制への基盤整備
 - 欧州との文化的なギャップを考慮し、より長期的な視点に立ち慎重にVOGTとの統合を組織的に推進
 - 中国を中核としたグローバルな生産体制の構築 – グローバル最適生産拠点体制の追求（サプライチェーン効率化による中間在庫・運転資金圧縮も企図）
 - 自動車電装部品開発の中心である日・欧は基礎研究、モジュール部品の開発に注力
 - VOGTの持つモジュール部品開発ノウハウのグローバル展開（実現を円滑に進める体制構築）
 - 商品応用開発部門を中国に集約（Central-Labの立ち上げ、活用）
- 新規事業創出のための新組織（NBCC）発足 – 長期的視点からの新規事業開発とシナジー実現のコーディネーションを目的
 - 新規事業創出育成
 - M&A候補のリストアップと買収検討
 - 各組織間のシナジー推進
 - 各組織・部門間の利害調整、グローバルな経営課題への対処
- 更なる資産効率化
 - グローバルな財務管理体制の整備（より効率的な資金管理の追求）
 - グローバル現預金ポジションの圧縮
 - VOGTにおけるバッチ生産の見直しによる在庫の圧縮

2008年度以降は「収益力の伴った成長」により、更なる企業価値創造を目指す – 「収益力のある1,000億円企業へ」

前提： コイル市場の成長率

- **コイル市場は今後も全世界的に金額ベース10%成長維持**
 - 電気製品のデジタル化によるコイルのノイズ除去
 - 省エネ化を支えるコイル技術（パワー制御/センサー機能 など）
 - 通信機能の拡充によるコイルのアンテナ機能
 - 自動車電装の進展によるコイルの車載搭載数増大

スマダグループの価値創出の源泉

- **巻き線型コイルは市場並の成長を享受**
 - チップコイル、圧電セラミックと製品特性で棲み分け
 - 巻き線型市場におけるポジショニングから見ればアジアで10%、欧州で5%の成長は十分に達成可能
- **コイルの製品化拠点の中国集約(C-Labの活用)**
 - 情報集約による開発スピードの向上
- **コイル生産拠点の新展開**
 - 中国／番禺を中核として、生産拠点を西域へ展開（広西、ベトナム、インド） - スミダ“シルクロード”構想
→更なる減価の低減を企図
 - VOGTのコイル生産の中国移管による収益性向上
 - サプライチェーン効率化→キャッシュフロー改善・顧客対応力向上
- **SVGとSECLの間のシナジー推進**
 - 欧州自動車産業で培われたVOGTのモジュール製品開発能力の全世界への展開

戦略事業の二本柱を軸に、新たな事業創造も目指す

End of the Report

ご注意

本資料は、当社の評価を行うための参考となる情報提供のみを目的としたものです。投資等の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願い致します。投資の結果等に対する責任は負いかねますのでご了承ください。当資料に掲載されている予想数値あるいは将来に関する記述の部分は、資料作成時点の判断ですが、その内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。

コイル生産のシルクロード(南海路)

中国発

ベトナム

インドへ

